

URCアートアクション・タイムズ | SUMMER 2022

001

アートあ

ART ACTION by UNIMAT Retirement Community



©Natsuko Tanihara, courtesy of MEM

アートって何だろう!?

URCアートアクション・タイムズ | 001 | SUMMER 2022

発行 / 株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ 編集長 / サトウキ



[亀有ケアコミュニティそよ風]

〒125-0061
東京都葛飾区亀有1丁目12-3
03-5629-6921

アートあ

ART ACTION by UNIMAT Retirement Community

「アートあ」は、URCアートアクションの愛称。はじめてアートにふれてみる。毎日にアートをプラスする。アートをとおしてモノや社会の見え方が変わる。そんな「あ」とする感動や体験をしていただき。その想いからスタートしたプロジェクトです。

CONTENTS

001

SUMMER 2022

- 03 アートの紹介 — アートの風 —
- 07 BGMの紹介 — 音のそよぎ —
- 11 香りの紹介 — 香り立つ・・・ —
- 13 フラワーデザイナーの紹介 — フラワーアレンジ —
- 15 寄稿エッセイ
— レッツ・エンジョイ・クラシック！
[クラシック・ソムリエ 田中 泰]



発行/株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ
編集長/サトマキ
編集・構成・コピーライティング/栗原 勲 (RED)
アートディレクション・デザイン/RED

URCアートアクション・タイムズ 創刊のご挨拶

こんにちは。初めまして。私は株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティのアートディレクター・佐藤麻紀子と申します。これからちよくちよく、みなさんのところにお邪魔することになります。見かけた時はどうぞサトマキさん、サトマキちゃん、サトマキ、と呼んでくださいね。今号からはじまったURCアートアクション・タイムズ、みなさまの施設・亀有ケアコミュニティそよ風の今の情報をお伝える冊子です。3か月に一度、発行されますので、楽しみにしてください。

みなさん、もうご覧になりましたか？玄関ホールの斬新なお花と、1階の廊下と談話室に飾られた現代アートたち。そして、館内では素敵な音楽が流れ、玄関ホールでは香りも香っていますよね。これは、私が施設のスタッフさんたちと相談して、ご入居のお客様方がどうしたらもっと心が元気になってくれるか、考えて導き出した答えのひとつです。

今までも健康に気を使い身体のケアを行われてきたと思いますが、心のケアはいかがですか？ご自宅にいらした頃は、大切な人との会話、散歩して目にするちょっとしたワクワク、ちょっとしたお買い物。そういった日々の小さな楽しみが、毎日をちょっと元気にするスパイスだったのではないのでしょうか？そんなみなさんに、どうやったら、小さな幸せを感じてもらうことが出来る？と考えました。

そこで思いついたのが、現代アート作品を飾ること、斬新なデザインのお花を飾ること、素敵な音楽を流すこと、そして香りを焚くこと、です。継続的にこれらを日々感じることによって、みなさんが少しでも感性豊かに元気になってゆくことを願って、その道のプロの方々と作り上げました。

このアートアクション・タイムズは、そんな私のパートナーのプロフェッショナルの方々の思いをご紹介します。冊子です。

さらに、秋～冬にはアートイベントもやっていきます。

それでは、今月号からどうぞよろしくお願ひします。



FINE ART 001

スクリプカリウ落合安奈
Ana Scripcariu-Ochiai

明滅する輪郭

190×160mm ピグメントプリントにビニールを縫製
2015年/2019年

作家プロフィール：1992年埼玉県生まれ、2016年東京藝術大学絵画科美術学部油画専攻卒業、2019年同大学院美術研究科修士課程GAP専攻卒業、現在同大学 博士後期課程美術研究科美術専攻彫刻在籍。日本とルーマニアの2つの母国に根を下ろす方法の模索をきっかけに、「土地と人の結びつき」というテーマをもつ。

FINE ART

アートの紹介

アートの風

みなさんの施設に飾ってる作品は、現代アートとって、現代(今、同時代)を生きている(アーティスト)さんが描いた作品です。これらはみな、個人のコレクターさん(所有者さん)からお借りしてきた作品群です。その所有者さんの、このコレクションに込めた思いを伺って来ました。今回はあおばさんです。



art collector

あおばさん 会社員

私は、都内在住の会社員です。私がコレクション・アート収集を始めたきっかけは、妻が娘の出産のため里帰りしているタイミングで、気になっていた小松美羽さんの展示を拝見して、力強い作品に圧倒されたことと、娘が産まれる記念にもなると思い作品を購入したことです。2018年のCAF賞にてスクリプカリウ落合安奈さんの作品を拝見してから、落合さんはじめ若手作家さんの作品を中心に、自分の中に何かが残った作品を購入しています。自分の中で動いた感情や感動など残して

おきたいという意味が強くあるように感じております。若手作家さんを購入する理由には、これからの活動を長く追っていけるということ、比較的購入しやすいこと、まだ表現が固まっていない粗削りな部分もありますが、変化も含めて面白みを感じていることなど、そういったコレクションが自分には向いているのだろうと思います。今回はその中から、どういった作品なのだろうと目に留まるような作品を選んでみました。

art director サトマキ



みなさん、はじめまして。サトマキです。いよいよ今月から、現代アート作品を施設に飾ることになりました。どうですか？なんだか不思議な抽象画ばかり並んでいますよね。みなさん、そもそも、アートって好きですか？時々新聞やテレビで、展覧会の情報を見ると、行きたいなあと思ったことは過去にはあるけど、実際には足を運んだことが無い。だいたいみなさんそんな感じじゃないでしょうか。私は長らくアートを仕事にしてきた「学芸員」(美術館などを企画して、みなさんに選定した作品をお見せする人)です。で、アートは身近なのですが、時々大学で講義をしたり一般の方々に講座を行うと、みなさん、アートって何か分からない、理解が難

アートって、
良く分からないですよね。
それで良いんです。

しい、このように仰います。アート、とつきにくいですよ。良く分からないですよ。それで良いんですよ。アートを分かる・理解する必要なんて無いんです。

アートは、自分自身の内面、心を覗く鏡、なんです。なんだかこの絵を見ると、ざわざわとして不安な気持ちになる、なんだかこの作品見ると、ワクワクした気分になるみたい、そういう「自分自身の心を感じる装置」だと思ってもらえば良いです。

もちろん、アートを仕事にしている私にとっては、多くの人がよりアートを好きになってもらいたいし、アートに興味を持ってもらって、「理解する」まで至ってくれたら、もっともっと楽しい地平が開けるとは思いますが、まずは、自分の心がどう傾くか、を感じるだけで良いのです。その一点に集中しましょう。そうして、何かしらの感情に気が付いたら、それを分析してみましょう。「どんな気分？何をしたくなる？何をしたくなくなる？次もこれを見てみたい？それとももう見たくない？」そして、それをまた見てみたい、頻繁に見てみたい、と思ったら、それが「興味」です。興味を持った・気に入った作品

を、覚えておきましょう。覚えられない人はメモしましょう。写真を撮る、でも良いです。そして、私やスタッフさんに教えてください。その人の他の作品が載っているカタログなり本なりを借りて来て、あなたにお見せします。そしてそれらの作品がやっぱり好きだったら、あなたはそのアーティストさんが好きなんです。理由は人さまざま、作品さまざまだと思いますが、好きなアーティストを見つけたということです。その先には、沼が待っていますよ、どんどんそのアーティストさんの作品を観たくなくて、その方のことを知りたくなくて、時代背景を知りたくなくて、作品のモチーフについて考察したくなつて、それはすっかり「ファン」というものです。それが「作品の理解」へとつながります。いったん作品が理解出来ると、とてつもない楽しみが待っています。

でも、それは次のステップ。
まずはいったん、自分が興味があるか、どう感じるかを考えてみる、それだけで良いのです。そしてどうしてそう思う？と考えてみてください。それがあなたの心を覗く第一歩なのです。



©Natsuko Tanihara, courtesy of MEM

FINE ART 002

谷原菜摘子
Natsuko Tanihara

新竹取物語—邂逅—

455×455mm ベルベットに油彩、グリッター
2020年

作家プロフィール：1989年生まれ。2021年京都市立芸術大学美術研究科博士課程修了。絹谷幸二賞、VOCA奨励賞、京都府文化賞奨励賞、咲くやこの花賞美術部門などを受賞。黒や赤のベルベットを支持体に、油彩やアクリルのほかにグリッターやスパンコール、金属粉なども駆使し、「自身の負の記憶と人間の闇を混淆した美」を描く。

MUSIC

BGMの紹介

音のそよぎ

この亀有ケアコミュニティそよ風には、音楽セレクターさんたちが厳選した楽曲が、BGM（バック・グラウンド・ミュージック）として流れています。
亀有オリジナルセレクトの1週間をどうぞお楽しみください。



producer

清宮 陵一 さん

NPO法人トッピングイースト理事長/合同会社ヴァイナルソユーズ代表

1974年東京都生まれ。音楽プロダクション・ヴァイナルソユーズではさまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。トッピングイーストでは地元・東京都に根差したプログラムを展開。2021年『隅田川怒涛』を実施。

今回お聴きいただく音楽は、一週間で一つのサイクルとして、1日の目覚めから眠りまでの時間を意識できるつくりにしました。また、情景が浮かんで、まるで日本中を世界中を旅する感覚を持てたり、ときに人生を懐かしみ昔話に花が咲く、誰もが知る曲もかかります。プロの選曲家による多彩な音楽をお楽しみください。

医療的視点での
アドバイザー



医師、医学博士

稲葉 俊郎 さん

軽井沢病院 院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任（山形ビエンナーレ2020 芸術監督 就任）

単著『いのちを呼びますもの』、『いのちのいのちへ』（アノニマ・スタジオ）など。

MUSIC SELECTOR

03



ライター

大石 始 さん

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。旅と祭りの編集プロダクション「B.O.N」主宰。著書に『盆踊りの戦後史』（筑摩書房）、『奥東京人に会いに行く』（晶文社）、『ニッポンのまつリズム』（アルテスパブリッシング）、『ニッポン大音頭時代』（河出書房新社）など。オンラインラジオ「WAH! Radio」で各地の民族音楽を紹介する番組「folkloric」を担当。現在の連載に月刊「東京人」の「まちの記憶、音の風景」など。

MUSIC SELECTOR

02



音楽家

蓮沼 執太 さん

1983年、東京都生まれ。「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、映像、プロジェクトなどを制作する。アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティ、文化庁・東アジア文化交流史に任命されるなど、国外での活動も多い。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

MUSIC SELECTOR

01



クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スプートニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ライター

大石 始さん



SELECT 主な楽曲

入所者の方々が日々暮らす空間でどんな音が鳴っていたら心地いだろうか？ そんなことを考えながら作品を選ばせていただきました。朝は爽やかな空気に溶け込む静物画のような作品を。昼は他の入所者の方との会話のきっかけになるかもしれない童謡やわらべうた、民謡を。夜は時に健やかな眠りへと誘い、時に懐かしいあの時代へタイムスリップする作品を。皆さんの暮らしにちょっとした色合いを加えることができれば、これほど嬉しいことはありません。



■曲名: さくら変奏曲 ■作曲家: 宮城道雄 ■主な演奏家: 渥美幸裕 ■録音年: 2018年



■曲名: 椰子の実 ■作曲家: 大中寅二 ■主な演奏家: キヲク座 ■録音年: 2015年



■曲名: 大島節 ■作曲家: (民謡) ■主な演奏家: ザ・ピーナッツ ■録音年: 1963年 ©キングレコード



■曲名: 星影のワルツ ■作曲家: 遠藤実 ■主な演奏家: 大工哲弘 ■録音年: 2013年

音楽家

蓮沼 執太さん

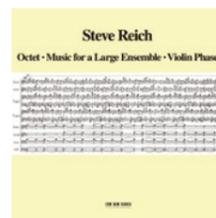


SELECT 主な楽曲

音楽は目に見えないものではありません。時間の変化に寄り添うように、な万世不刊な楽曲をセレクトさせてが空間におとずれて欲しいと思って



■曲名: Watermusic/ウォーターミュージック ■作曲家: William Basinski/ウィリアム・バシンスキー ■主な演奏家: William Basinski/ウィリアム・バシンスキー ■録音年: 2001年

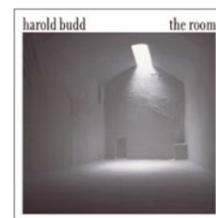


■曲名: Music For A Large Ensemble/ミュージック・フォー・ア・ラージアンサンブル ■作曲家: Steve Reich/スティーブ・ライヒ ■主な演奏家: (Large Ensemble) ■録音年: 1978年 ©ユニバーサル ミュージック

すが、空間を彩る力があります。一空間の彩りを淡く変化していきただきました。常に新鮮な空気感



■曲名: 間奏曲集、4つのバラードより&2つのラプソディ Intermezzo No.2 in B-Flat Minor, Op. 117 Andante non troppo e con molta espressione ソニー・ミュージックレーベルズ ■作曲家: Johannes Brahms/ヨハネス・ブラームス ■主な演奏家: Glenn Gould/グレン・グールド ■録音年: 1960年



■曲名: The Room Alight/ルーム・アライト ■作曲家: Harold Budd/ハロルド・バッド ■主な演奏家: Harold Budd/ハロルド・バッド ■録音年: 2000年

クラシック・ソムリエ

田中 泰さん



SELECT 主な楽曲

朝から夕べへと移りゆく時間を、クラシック音楽のジャンルと編成によって表現したいと考えました。爽やかな朝を演出するシンプルかつスッキリとしたピアノや器楽曲に続き、午後から夕方にかけて徐々に編成を大きくした華やかでゴージャスな音楽をお楽しみいただきたいと思います。さらには、1週間の流れをクラシックの時代の変化で表現します。バロックから古典派・ロマン派を経て近現代に至る音楽の深化と変化をご堪能ください。



■曲名: ゴルトベルク変奏曲/Goldberg Variations, BWV 988 ソニー・ミュージックレーベルズ ■作曲家: J.S.バッハ/J. S. Bach ■主な演奏家: グレン・グールド(ピアノ)/Glenn Gould ■録音年: 1981年



■曲名: ショパン&ラフマニノフ:チェロ・ソナタ他/Chopin: Cello Sonata in G Minor, Op. 65:Rachmaninov: Cello Sonata in G Minor, Op.19 ■作曲家: ショパン/Chopin、ラフマニノフ/Rachmaninov ■主な演奏家: アレクサンドル・クニャーゼフAlexander Kniazev(チェロ)、ニコライ・ルガンスキー Nikolai Lugansky(ピアノ) ■録音年: 2006年



■曲名: モーツァルト: ピアノ協奏曲第20番、25番 Piano Concerto No.20 in D Minor, K.466 Piano Concerto No.25 in C Major, K.503 ■作曲家: モーツァルト/Mozart ■主な演奏家: マルタ・アルゲリッチ Martha Argerich(ピアノ)、クラウディオ・アバド Claudio Abbado(指揮)、モーツァルト管弦楽団 Orchestra Mozart ■録音年: 2013年 ©ユニバーサル ミュージック



■曲名: ドヴォルザーク: 交響曲第7番・第8番・第9番「新世界より」他 ソニー・ミュージックレーベルズ ■作曲家: ドヴォルザーク/Dvořák ■主な演奏家: ジョージ・セル George Szell(指揮)、クリーヴランド管弦楽団 Cleveland Orchestra ■録音年: 1958年&1959年

夜の香り「夢心地」



Lavender/Sweet orange/Bergamot/Petit-grain/Eucalyptus radiata/Sandalwood
ラベンダー/スイートオレンジ/ベルガモット/
プチグレン/ユーカリラジアータ/サンダルウッド

夢心地の眠りを

暮れなずむ空に舞う桜の花びらを眺めているような夢心地をイメージしました。リラックス作用のあるラベンダーと心を朗らかにするシトラスの香りが相まって、優しく微笑むように寄り添います。ウッディーな白檀の香りは心身の緊張をほぐし、ユーカリは呼吸を楽にしてくれるでしょう。安心感に包まれ、どうぞ夢心地でぐっすりとおやすみください。

朝の香り「海辺散歩」



Lime/Spearmint/Peppermint/Lemon-grass/Juniper berry/Cedarwood
ライム/スペアミント/ペパーミント/レモング
ラス/ジュニパーベリー/シダーウッド

朝の海辺で爽やかな朝を

朝の海辺を散歩していると、陽光と潮風が新しい一日の活力をもたらしてくれます。どこまでも広がる海と朝の陽射しの清々しく明るい空気をイメージした香りです。思考をすっきりとさせて覚醒する爽やかなミントの香りに、きらりと輝くライムの香り。ジュニパーベリーは針葉樹らしい瑞々しさを精神を健やかにするだけでなく、遠い夏のジントニックの香りに重なるかもしれません。シダーウッドの深く甘みのある香りが呼吸を深くします。ゆったりと朝のエネルギーを深呼吸して、一日をスタートしましょう。

AROMATHERAPY

香りの紹介

香り立つ…

玄関ホールで、何やら香っている
せんか？

良い香りだと思われましたか？そ
うなんです、実は、今回、新たに香
りを導入しました。

実はこの香り、香りのプロが施設
に合わせて調香（香りを調整する
こと）してくれた、特別な香りなの
です。これから、季節に合わせて、
毎回少しずつ香りを変えて、みな
さんにお届けします。



IFAアロマセラピスト
アロマスペースデザイナー

大橋 マキさん

好きな香りをかいで心地よい気分になったことはありませんか？アロマセラピーとは、嗅覚のメカニズムを利用した植物療法です。植物から抽出した芳香物質（精油）の分子は、鼻腔を経て、嗅細胞で電気信号に変換されて脳へと伝わります。精油は、脳が関わる感情や記憶、様々な活動に働きかけ、リフレッシュや鎮静など作用します。また、自然の香りによって、季節感や生活リズムを上手に取り入れる手軽な方法でもあります。香りとともに清々しい朝を、夢心地の夜を、上質な日常を過ごしていただけたらと願いブレンドさせていただきました。

大橋 マキ Maki Ohashi / IFAアロマセラピスト / アロマスペースデザイナー 放送局を退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。アロマセラピストとして6年間の病院活動を経て、アロマ空間演出の他、精油の地産地消や企業ブランディングにも従事。自身が代表を務める一般社団法人はっぶでは、園芸療法を用いた認知症ケアや農福連携にも取り組む。アロマブランド「aromamora」では季節のブレンドを製作。執筆、ラジオ出演、講演多数。



FLOWER

フラワーアレンジ

フラワーデザイナーの紹介

今月からフラワーデザイナーさんにデザインしてもらって、お花を飾っているのです。このページでは、毎回施設に飾られているお花をデザインしてくれるフラワーデザイナーさんを紹介しします。

お花は毎月変わるためお花そのもののご紹介は出来ませんが、デザイナーさんをご紹介することで、そのお花を身近に感じて欲しいなと思っています。



フラワーデザイナー&スタイリスト

松本 由利 さん

花を飾る際には、その花をどのような方がどのような気持ちで見るとかを考えて選ぶようにしています。花を目にすることで、癒しやリラックス感を感じることでしょう。また、花があるところには、不思議と人が集い、会話が生まれるので、元気や楽しみの源にもなります。これは、まさに「フラワーパワー」。なかなか外に出られない時でも、花を目にし、触れることで、自然の豊かさを味わう機会にもなることでしょう。

松本 由利 Yuri Matsumoto / フラワーデザイナー&スタイリスト

英国人デザイナー、ジェーンパッカーの元でデザイナー、インストラクターを務めたのち独立。「花と食」「花とインテリア」といったさまざまな分野とのコラボレーションレッスンを企画運営。スタイリッシュな花を得意とする。フラワーショップkusakanmuriが主催する「草冠の学校」でも講師をつとめる。

ESSAY

001

レッツ・エンジョイ・クラシック！

クラシック・ソムリエ
田中泰

人間は
70歳を超えるくらいから
クラシックが好きになる

みなさんこんにちは。今月から施設内に流れる音楽のセレクターを務めることになりました田中泰です。僕の担当ジャンルはクラシックです。さてみなさん、クラシックは好きですか？それ以前にどのようなイメージをお持ちでしょうか？「敷居が高い」「難しい」「何を聴いて良いかわからない」というイメージを持たれている方が決して少なくないのがクラシックの現状です。統計的にも、日本におけるクラシックの愛好者数は、全人口の5%にも満たないという衝撃的な

数字が示されています。若い人たちのクラシック離れも懸念され、このままではクラシック音楽ファンが居なくなってしまうのではないかと心配の声も聞こえてきますが、「大丈夫、人間は70歳を超えるくらいからクラシックが好きになるものさ」などというお気楽な意見があるのも事実。そしてその言葉を裏付けるように、歳を重ねるうちにクラシックの良さに気付いて好きになるケースが多いようなのです。これは一体なぜでしょう。その答えは、私達が住む日本の環境にあるようです。日本は、子どもたち全員に音楽教育を施すという、世界でも極めて珍しい国なのです。ちなみに「音楽の都」として名高いオーストリアのウィーンにおいて子

供が音楽を学ぶためには、「ウィーン少年合唱団」の拠点であるアウガルテン宮殿内の小学校に入学するしかないそうです。ところが日本の子どもたちは、小・中学校を通して、音楽家たちの肖像が飾られた音楽室でさまざまな音楽に接する機会を持つのです。この教育がクラシック音楽ファンを育むとは思えませんが、様々な音楽が刷り込まれていることは間違いありません。さらには、TVCMやドラマの中でも実に多くのクラシックが使われています。つまり受け入れ体制はすでにできていると言っても過言ではないでしょう。あとは、きっかけ次第です。

好きな曲との出会いがとても
大切。さまざまな演奏で
聴き比べてみよう

そのきっかけは、「好きな曲との出会い」です。クラシックは「再生芸術」、つまり400年ほど前から今に至るまでの長きにわたって古今東西の作曲家たちが創り上げ、時の荒波の中で淘汰され、絞り込まれてきた名曲中の名曲を味わうという独特の世界です。それは、歴史的な文学作品を読むことにも似ているように思えます。バッハやベートーヴェンの作品を聴くということは、シェイクスピアやゲーテの名作に親しむことと同じだと考えると話が早いでしょう。読書において好きな作品との出会いが重要なように、クラシック音楽の世界でも、好きな曲との出会いがとても大

切なのです。好きな文学作品に出会えばその作家の他の作品を読みたくなるように、クラシックにおいても好みの曲が見つかったなら、その作曲家の他の作品を聴いてみたくなくても不思議ではないはずです。クラシックの奥深さは、そこに「演奏者」という要素が加わることです。好きになった曲をさまざまな演奏で聴き比べてみると、そこには自分の好みの演奏者との出会いが待っています。すると今度は、その演奏者が演奏する他の曲を聴いてみたくなるに違いありません。ここまできたら立派なクラシック音楽ファンの出来上がりです。この施設内に流れる音楽の数々に是非耳を傾けてみてください。きっとお気に入りの曲との素敵な出会いが待っているはずです。レッツ・エンジョイ・クラシック！



クラシック・ソムリエ

田中泰さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スपोर्टニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

MEMO

A large grid area for writing a memo, consisting of a 20x20 grid of squares. The grid is enclosed in a thick black border. The top-left corner of the grid is occupied by the 'MEMO' header box.